

まつもと震災支援ネットフォーラム

昨年夏に発足した、まつもと震災支援ネット（避難者との交流を続けてきた9団体）が主催するフォーラム「その時あなたはどうしますか？—大惨事から生き抜くヒント—」が、3月8日（日）総合社会福祉センターで開催され、約200名の参加がありました。ネットワークは、フォーラム開催に向けて市民活動サポートセンターで打ち合わせを重ねてきました。

様々な形で東日本大震災に関わる学生たちの活動発表のあと、福島県から避難している方の体験談を交えながら



学生たちとのパネルディスカッションが行われました。

「若者のパワーに感激した、今後も期待したい」「被災経験者の実体験を直接聞いて参考になった」という声が聞

かれました。炊き出し機部隊みらいによるポリ袋を使った炊き出しメニューの試食は、「おいしい、温まる」と大変好評でした。

午後は、災害支援団体「チーム神戸」代表の金



田真須美氏による講演がありました。阪神・淡路大震災の被災者から支援者となり、以後各地の被災地に赴いた経験からのお話は、被災地、弱者に寄り添った、心の通う支援に取り組むお姿が印象的でした。

未曾有の大震災から4年が経つ今、改めて震災を身近なものとして捉え、日頃あまり交流のない方同士をつなげ、その時どうすればいいのか？そのヒントを探るフォーラムになったと思います。

助成金獲得セミナー

市民活動団体のマネジメント力向上のための「助成金獲得セミナー～助成金申請書の書き方～」が、今年も公益財団法人日本財団の荻上健太郎氏を講師にお招きして、2月17日に開催されました。

「助成金獲得のコツと事例に学ぶ申請書作成のポイント」と題した講義の後、各自ワークシートにそって模擬申請書を作成しグループ内で説明。模擬審査会をイメージしたワークでは客観的な視点を養うことができ、それぞれに気づきと収穫のある講座になりました。アンケートでは「相手側に分かるように立案すること。相手方とのコミュニケーションの大切さが良くわかった。自分本

位になりすぎないことに気を付けよう。」という感想をいただきました。

途中休憩もいれながら、4時間をかけてのワークでしたが皆さんとても集中して真剣に取り組んでいました。グループワークでは、それぞれの提案事業に互いに積極的にコメントをし合い、名刺交換や具体的な協力関係も生まれるグループもあり、団体間交流という意味でも成果のあるセミナーとなりました。



ぼくらの学校 開催日決定！

開催日：平成27年10月3日（土）・4日（日）

9月末の土日開催ということで、あがたの森文化会館へ要望しておりましたが、会場予約調整の結果10月3日（土）・4日（日）ということになりました。各団体におかれましては、次年度計画等が確定しつつあると思いますが、日程調整をよろしくお願ひします。

※ぼくらの学校2015 第1回実行委員会は、5月頃に開催予定です。日時等が決定しましたらご案内いたします。

さぼせん日記

2/7、2/14ファシリテーター実践講座

連続5回講座の後半はグループに分かれてワークショップの実践。模造紙に大きな木を描き、課題と資源を洗い出し、さらに事業計画に育てるワークショップを体験。ファシリテーターにはホスピタリティーが何より肝心であると知った講座でした。



2/6、2/20、2/27 プラチナコーラス練習

3月14日のプラチナフォーラムに向けて2月、3月は毎週金曜日にコーラス練習がありました。三木明子さんの優しい指導と伴奏で、楽しく笑顔でゆったり練習。「見上げてごらん夜の星を」「故郷」「花は咲く」心を込めて歌います。市内公共施設、福祉施設に歌声をお届けできる日も近そうです。



2/17 しみんサロン・観光編 (第2回)

今回は、ゆっくり滞在してもらうための観光ルートをテーマにプレゼン大会をしました。7名の案が発表され投票により5案に。それぞれのストーリーを生かし、点在する歴史的資源やおすすめスポットを線でつなぐアイデアをグループに分かれ議論。大学生が考案した松本マップTシャツにベテランガイドさんの案内をつけたプレゼンが最高得票になりました。



3/12 ふれあいサロン・プラチナサロン 合同開催



恒例のふれあいサロンでは、福祉施設の販売の呼び声も威勢よく、買い物客で賑わいました。午後は、プラチナサロンと合同で、春の歌を合唱し楽しみました。

支える人たち

～託児ボランティア 降旗 昭子さん～

託児ボランティア

Tel: 0263-88-2988

(事務局: 松本市市民活動サポートセンター)



託児ボランティアは、松本市市民活動サポートセンターが実施する避難者支援事業をサポートするため、平成24年度より始まった。託児ボランティアで活動する降旗昭子さんにお話を伺った。

— 託児ボランティアを始めたきっかけは何ですか。

もともと松本在住なのですが、数年前娘の子育ての手伝いで郡山市にいて、2011年の東日本大震災のときにたまたま私も被災したんです。被災後は家もだめになり、娘も気持ちがどんどん沈んでしまったりと、うちは誰も亡くなっていないのに切ない思いをして。そんなときに、被災地から松本へ避難している人たちへの託児ボランティアがあると知り、『私にできることがあればぜひお手伝いしたい』と思ったんです。

— 娘さんと同じような境遇のお母さんたちを支援したい、という気持ちがあったんですね。

震災後は娘も松本に避難していたのですが、私に孫を預けて一度東北に戻ることがあったんです。それで、子供と離れたときに初めて『これからのことを考える心の余裕ができた』と感謝されました。小さい子がいる親は特に、生活することに精一杯になって、心に余裕がなくなってしまいうんですね。そんなとき実家があればいいけれど家族を亡くした人もいます。だから託児

をしている数時間だけでも、お母さん方が苦労を忘れて、やりたいこと、やらなければならないことに気持ちを向けてもらえたらなと思っています。

— 活動を始めていちばんの変化は何でしょうか。

やる気いっぱい始めたボランティアですが、大切な子供さんを預かるというのは大きな責任があることで、すし、体力もいるので少しずつ体力作りをしたりと、私自身前向きになって、身体はもちろん気持ちも元気になりました。託児後は身体は疲れますが、心が満たされて、私が励まされているのを実感します。またボランティア仲間と出会って、家にいたのでは関わらない人たちと、同じ目的で活動できるというのもうれしいですね。誰かのためにがんばれるというのは、とても幸せなことだと思います。年は重ねるけれど、これからもできる限り続けていきたいです。

震災後は自分だけ楽をしたいという気持ちはなくなったと降旗さん。人のために生きることで自分が生かされてゆくのだと感じた。(インタビュー: なかがわ)

Close Up!

いきものみつけファーム in 松本推進協議会

Tel : 0263-50-5822 Fax : 0263-86-0558 (事務局)

E-mail : ikimonomikke@nakajimaya.co.jp

URL : <http://www.ikimonomikke-farm.com>

「いきものみつけファーム」は産官学民の協働によって、体験型の農場を設置・運営し、地域の中に、生物多様性をテーマとした環境教育、食・農教育に関わる環境教育を行う事業である。松本は2012年1月、全国に先駆けて開始した。今回は事務局を務めている田中孝男さんよりお話を伺った。

現在、松本市寿北の田んぼを中心に、農薬や化学肥料を極力減らすことができる「米の精」(米の肌ヌカで作った肥料)を使用した「循環型農業」を実践。松本市内の小学生、未就学児とその保護者を対象として、春は田植え、夏は畑の収穫&生きもの観察、秋は稲刈り、そして、最後は収穫したお米の販売と年4回のイベントを行っている。平成26年度は子ども達とその保護者、学生と幅広い世代の人が約200名参加した。子ども主体の企画でありながら、幅広い世代の人にも関わってもらうことで、次世代にわたる継続的な活動となることを目指す。

3年目の田んぼは、化学肥料等を使用した田んぼと比

いきものみつけファームの
田んぼ(→)



較して、明らかに水田の生物の数も多く、ゲンジボタルの幼虫の発生まで見られた。田んぼや畑にたくさんの生き物がいるのは自然なことで、そこで取れた食べ物を食することは、自分の体をつくり、自分のためになることだと、子どもが自ら学ぶという。「イベントに参加した人達は、単に楽しかったというだけではなく、何が安心安全な食なのか、根本的にどういう農業がよいのかわかった、と言います。実際体験することで、目で見て、触れて感覚が変わってくるのです。」と田中さん。

また、農業体験に留まらず、流通・販売体験まで含めることで、生産者から消費者まで繋げたこの活動は、環境と経済の調和を実現する地域づくりを意識した広い視点に立っている。「いきものみつけファーム in 松本推進協議会」は、連携・協働する組織・団体を募集中。活動の幅を広げていきたいと考えている。(さとう)

TEDxMatsumoto 組織委員会

Tel : 090-6511-8552 (代表: 伊藤 文嗣)

E-mail : tedxmatsumoto@gmail.com

URL : <http://tedxmatsumoto.naganoblog.jp>

アメリカで人気のプレゼンテーションイベント「TED」の内容はいたってシンプル。プレゼンターが「世界に広める価値あるアイデア」について話すというものだ。壇上には、科学者、医師、ミュージシャンなど幅広い分野のスペシャリストが登場して、観客をワクワクさせる斬新なアイデアを紹介する。日本でもインターネットやテレビを通じて話題になっており、ご存知の方も多いかもしい。いま、この「TED」の精神を尊重し、各地で独自の「TEDx イベント」を開催しようとする動きが広まっている。今年5月3日に初めて開催される予定の「TEDx Matsumoto」もその一つだ。今回は準備を進める委員会の代表・伊藤さんに話を伺った。

「自分たちのエリアならではのアイデアを世界に発信するチャンス」とイベントへの熱意を語る伊藤さん。テーマを「静と動」と設定して、じっくり考え実践につなげるきっかけづくりをしたいそう。当日のプレゼンターは11人を予定。「内容はまだ秘密ですが、松本にはお城を守ってきた歴史や、山雅FCを支えるサポーターなど、素

TEDxMatsumoto
メンバーの皆さん(→)



敵な要素がたくさんある。そういうところから生まれてくるお話をしてもらえればと思っています。また逆に、松本の外の目線も取り入れたいですね。松本で生まれた独自のアイデアと、松本に紹介したい素晴らしいアイデアの両方で地域が盛り上がったら。」と笑顔を見せた。

伊藤さんに活動をはじめたきっかけを伺ったところ、お子さんのお話をされていた。障害のため自分に自信をもてないことがあるお子さんが、自分らしく生きる人の姿を見たり、自分らしく振る舞うチャンスがあればと思っていたときに、「TED」を知って松本で開催しよう決めたそうである。人気イベントの仕掛人は、息子思いのお父さんでもあった。

現在、約40名のスタッフで準備中。しかし、まだまだ人手が足りないとのこと。「私自身は外から来た人間だけど、松本の人にはお世話になっていて、地域を盛り上げることで恩返ししたいと思っている。みんなで松本を盛り上げたいので、ご参加いただければ嬉しい。」とのこと。スタッフ参加の申込は電話またはメールで。(いしだ)

INFORMATION : お申込み・お問合せは各団体に直接お願い致します。



イベント・募集情報をお寄せください。

サポートセンター通信やホームページで、市民活動のイベント情報や募集情報などをご紹介します。



上高地ガイドサポーター募集

上高地の自然や文化に関心のある方を対象に、県内外から学習旅行で訪れる児童・生徒等に向けたガイドサポーターを募集します。自然が好き、信州が好き、上高地が好きという方ぜひご応募ください。

- ◆問合せ：上高地ネイチャーガイド協議会
TEL: 080-9287-2638
E-mail: info@kamikouchi.org
WEB: http://kamikouchi.org

‘認知症’～なぜこうなるの？どうすればいいの？～

- ◆日時：4月15日(水) 10:30～13:30
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター
- ◆講師：ミサトピア小倉医院 院長 岸川 雄介 氏
- ◆参加費：LDC 会員 500 円 一般 1000 円
- ◆問合せ：NPO 法人ライフデザインセンター松本事務所
TEL・FAX: 0263-46-2020

松本都市デザイン連続講座 公開イベント 「記号としての城下町～歴史・人・未来」

松本の都市デザインを考える連続講座のプレイベントとして、講座講師と松本市都市政策課職員とが「城下町は何か？」についてトークします。

- ◆日時：4月18日(土) 18:30～
- ◆場所：松本市中央公民館 3-1・2 (M ウィング)
- ◆入場料：無料
- ◆問合せ：松本都市デザイン学習会 (山本)
TEL: 090-2550-8331

松本^{まなぶ}ホテル学会 2014 年度報告会

松本市内でホテル保護活動に取り組む各地区のグループが、昨年のホテル発生状況を報告します。

- ◆日時：4月4日(土) 13:00～15:00
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター
- ◆参加費：300 円 (資料代)
- ◆問合せ：松本市市民活動サポートセンター
TEL・FAX: 0263-88-2988

しみんサロン 観光編(第3回)

リピーター・滞在型観光を増やすための「ゆっくり観光」の実現に向けて、観光ルートを企画立案します。松本観光に関心のある方ならどなたでも参加できます。

- ◆日時：4月7日(火) 13:00～15:00
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター
- ◆参加費：100 円 (お茶代)
- ◆問合せ：松本市市民活動サポートセンター
TEL・FAX: 0263-88-2988

チェルノブイリ・メモリアル・デイ 福島—チェルノブイリ 被ばくから子どもを守る

映画「カノンだより」上映と、ヒバクシャをライフワークにするドキュメンタリー作家・鎌仲ひとみ監督を囲むトークセッションがあります。

- ◆日時：4月25日(土) 13:00～
- ◆会場：M ウィング 6F ホール
- ◆料金：500 円
- ◆問合せ：認定 NPO 法人日本チェルノブイリ連帯基金
TEL: 0263-46-4218 Email: asama@jcf.ne.jp

各種登録更新はお済みですか？

- ・ボランティア保険の更新
今年度加入の保険期限は平成 27 年 3 月 31 日までです。別紙資料をご覧ください。
- ・レターケース利用登録 (無料)
毎年更新手続きが必要です。別紙申込書に記入の上 FAX にてお申し込みいただけます。
- ・ロッカー利用登録 (有料)
直接窓口か電話にてお申し込みください。詳しくは別紙資料をご覧ください。

新スタッフ紹介

新しくスタッフとして入りました、越智です。山が好きなので、北アルプスと松本城と一緒に眺められる松本が好きです。よろしくお願ひします。(おち)

編集後記

今年度も残りわずかとなりました。来年度もサポート通信がみなさまの活動を後押しする機関紙となるよう努めてまいります。また、登録団体さまのイベント情報など随時募集しておりますので、活動の広報手段としてお役立てください。(なかがわ)

